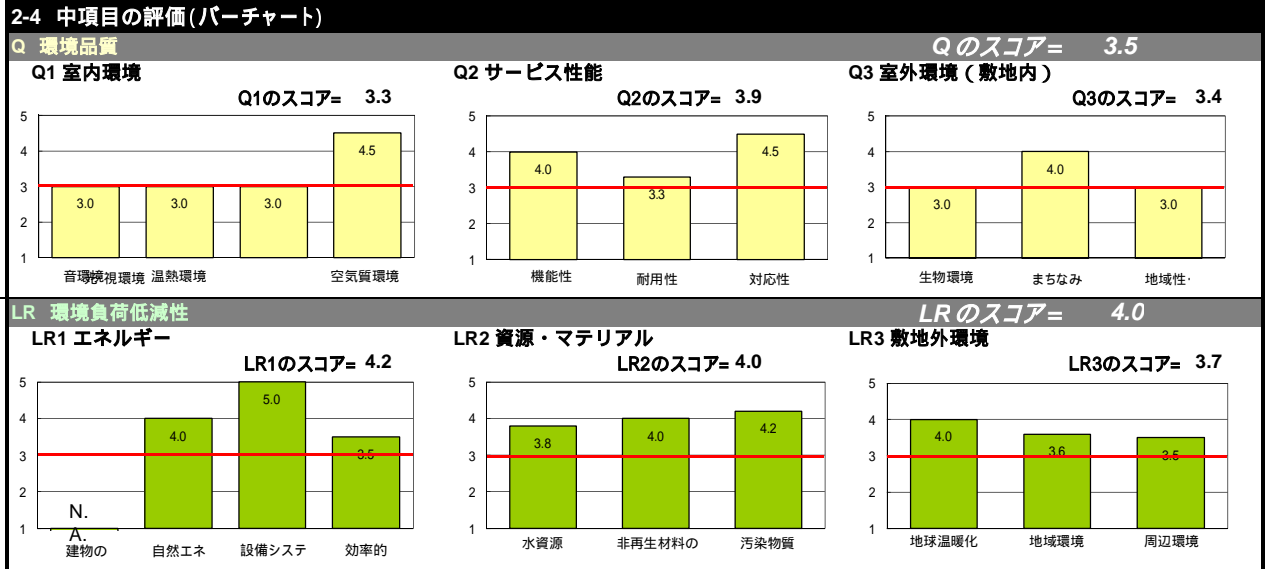
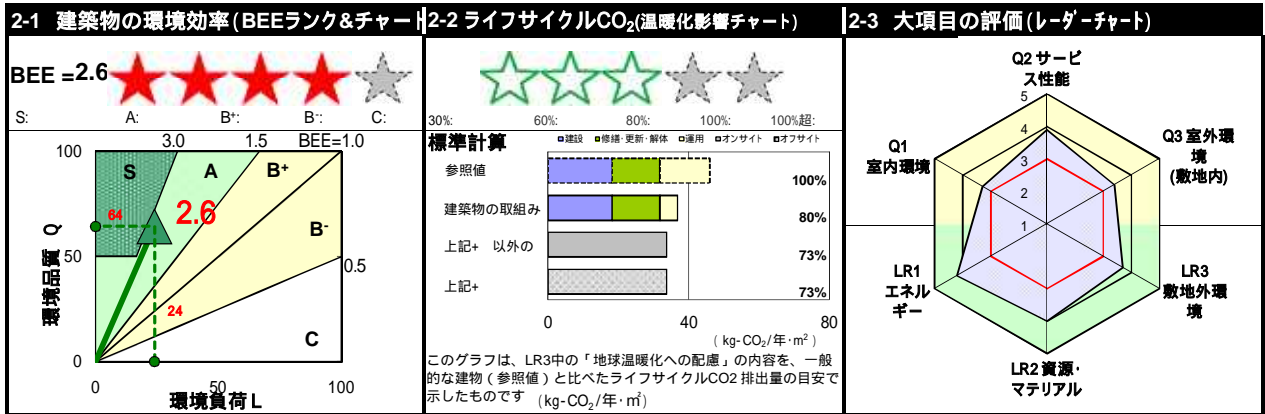


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	花王厚木ロジスティクスセンター	階数	地上5階
建設地	愛甲郡愛川町中津字桜台4009-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	100人
気候区分		年間使用時間	2,600時間/年
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2013年4月 竣工	評価の実施日	2013年12月24日
敷地面積	33,058 m ²	作成者	清水建設株式会社
建築面積	8,799 m ²	確認日	2013年12月24日
延床面積	32,208 m ²	確認者	清水建設株式会社



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>中部工業団地の規定に沿って、壁面後退や十分な緑地を確保。設備機器が外観を損ねないよう、屋上に目隠し壁を設置。最小限の要素でミニマルな外観デザインを行うことで、周囲の建物との調和を図っている。屋上に太陽光パネルを設置している。</p>		<p>切土、盛土を最小限化し、建設時の土の搬入を最小化。また、地中梁において、小梁を規格化・サイトPC化することにより、型枠を繰返し再利用することで、仮設資材のロスを最小限に抑え、省資源化を図っている。</p>
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<p>F 材料、低VOC材料を使用、建築衛生法の1.2倍以上の換気量を確保、汚染源のない箇所に吸気口を設け、排気口と吸気口を1.2m以上離している。館内に禁煙とし、喫煙者のために喫煙室を設けている。</p>	<p>12m²/人以上の十分な居室面積を確保、事務室の天井高2.7mを確保。維持管理の配慮(埃溜りのない設計、ハト被害対策、外部鉄骨のめがね等)、維持管理機能の確保(ごみ置場の設置・ブルブ等は維持管理しやすい位置にする等)。</p>	<p>中部工業団地の規定に沿って、壁面後退や十分な緑地を確保。また、設備機器が外観を損ねないよう、屋上に目隠し壁を設置。</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>ERR = 86.4%の確保、照明・コンセント・空調・搬送設備の用途別にもモニタリング可能な計画とする他、傾向管理ツールを採用し、運用時の省エネルギーにも配慮している。太陽光パネルを設置し、発電した電力を施設で利用している。LED照明を採用している。</p>	<p>超節水型機器の採用、雨水を緑地散水に利用。高耐力の躯体材料の使用等による省資源化。仕上げ材にリサイクル材を積極的に使用(ビニル床タイル、磁器質タイル、インターロックブロック等)、乾式工法・エツ部材の採用により、分別可能な計画としている。</p>	<p>燃焼機器の不使用、駐輪場・駐車場を100%以上確保し、交通負荷を低減、振動への配慮(大種地区、昼: 50dB以下、朝夕: 45dB以下、夜: 40dB以下)、広告照明を設置せず、敷地外へ洩れる光に対する配慮を行っている。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質)、**L:** Load (建築物の環境負荷)、**LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、**BEE:** Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい